

インナー大会 プレゼン部門 2019 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名 (フリガナ)	学部名 (フリガナ)	所属ゼミナール名 (フリガナ)
フリガナ) カナガワダイガク	フリガナ) ケイエイガクブ	フリガナ) コクサイケイエイガクブ
神奈川大学	経営学部	国際経営学科

※大会申込書に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入し、「有」の場合は使用するスライド番号も記載してください。

チーム名 (フリガナ)	代表者名 (フリガナ)	チーム人数 (代表者含む)	PPT 内動画 (有・無)	動画使用 スライドページ
フリガナ) ケーユージーズ	フリガナ) ツガネザワ タツキ	4名	無	無
KUgees	津金澤 樹			

※当日使用する PC、マイク、レーザーポインター機能付きワイヤレスプレゼンターは会場に準備しております。

これらは個別にご用意いただいても大学施設・設備の関係上ご利用いただけませんのであらかじめご了承ください。

発表時に使用する成果物 (例: 商品化した●●、店舗で配布したパンフレット、調査時に使用したアンケート)

無

※成果物の配布は、『禁止』とさせていただきます。

研究テーマ (発表タイトル)

外国人観光客への避難対策

※必ず<企画シート作成上の注意>を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要 (目的・狙いなど)

グローバル化が進む現代、外国人観光客数が増加し続けているため多くの観光地では宿泊設備や道路・標識整備などの発展が進められています。しかし、私たちは外国人観光客が地震国である日本で観光している際に震災に合う可能性を考え、外国人に向けた避難対策に焦点を当てました。緊急時に少しでも多くの外国人観光客の助けになりたいと思い始めました。

2. 研究テーマの現状分析 (歴史的背景、マーケット環境など)

私たち日本人は災害の恐ろしさを知り危機感を持っていますが、それに反して外国人観光客はその危険性を知りません。彼らの多くは日本語を理解できず、かつ土地勘がないため災害時に避難遅れになる恐れがあり、さらに観光目的で来日した外国人の中で震災について考えている人は多くないはずです。過去には阪神淡路大震災、東日本大震災では多くの外国人が被災者となり亡くなられた方も少なくありません。さらに、2012年から30年以内に首都直下型地震が発生する確率は70%とされており、外国人に対してより一層の対策が必要とされています。

藤沢市内で2020年東京オリンピックのセーリング競技の開催地となる江の島は震災時に津波の被害を大きく受けると予測さ

れています。しかし、藤沢市では在日外国人と市民を対象にした避難訓練が定期的に開催されているものの、参加している外国人は少ないのが現状です。さらに、在日外国人だけでなく外国人観光客も対象にした避難対策は存在せず、避難経路の案内図では英語表記はありますが十分な数ではありません。また、片瀬江の島駅に掲載されていたこのマップ（写真）は外国人に現場でインタビューしたところ、

- ・見づらい
- ・日本語が理解できない
- ・マップや文字が小さい
- ・マークが何を意味しているか理解できない

というようにいくつかの課題を見つけました。

以上のことから、来年に控えた東京オリンピックで大幅に増加すると考えられる訪日外国人は土地勘がなくかつ分かりづらいマップのために津波から避難し遅れる可能性があるため、特別な対策を講じる必要があります。



3. 研究テーマの課題

本研究テーマの課題は、「江ノ島では外国人観光客が多いにも関わらず、外国人観光客に対して十分な避難対策が行われていない」ことである。

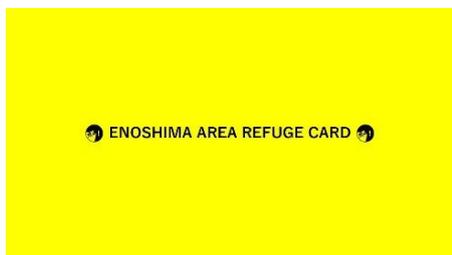
4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

私たちは“ENOSHIMA AREA REFUGE CARD”を提案します。町中にある提示版のマップは見づらいなどといった課題を解決するために、このカードは避難所でのコミュニケーションをサポートする付加価値が付いた携帯式カードです。

以下はカードの概要です。

- ・マップを掲載することでカードの持ち主がどこにいても直ちに避難すべき場所を把握できる。海沿いから高台へ避難するマップと江の島での避難するマップと二つに分け大きく見やすいようになっている。
- ・黄色い表紙は蛍光色になっていて暗いなか助けを呼ぶ際に効果を発揮する。
- ・必要最低限の個人情報を入力しておくことで言語が通じない避難所の環境でもコミュニケーションをサポート。
- ・折り畳み式で広げると大きなマップになっており、携帯できる小型サイズのため財布や小物入れに入れて容易に持ち運び可能。
- ・観光客が 100%理解できるように英語で対応している。

以上、外国人観光客が災害時に混乱状態に陥ることをなくスムーズに避難できるように、駅や観光センターなどに協力してもらいこのカードを観光客に配布または手に届くところに置いてもらうことで少しでも多くの外国人観光客を助けることができると私たちは考えています。



Personal information

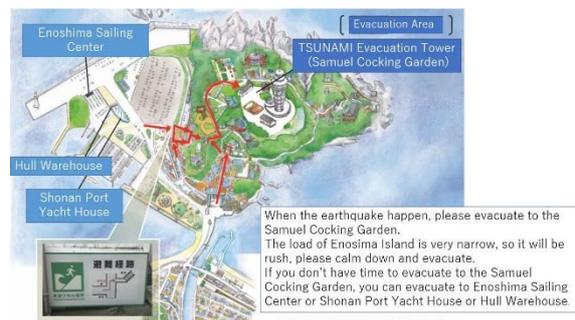
Nationality _____

Blood type _____

Disease/Injure _____

Allergies _____

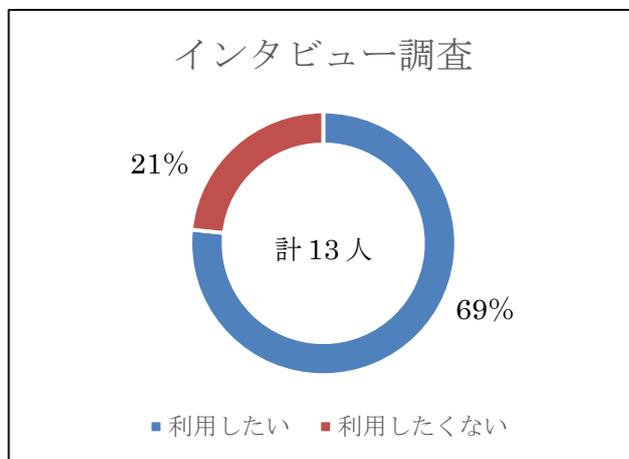
Pregnant YES/NO



5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

まず、“ENOSHIMA AREA REFUGE CARD”の実現可能性を藤沢市（片瀬江の島駅付近）でインタビュー調査。調査に協力してもらった外国人観光客に「今、津波が来たとしたら逃げる場所や方法はわかりますか？」また、「避難時にこのマップは役立つと思いますか？」と質問しました。大半の人が具体的な避難先を知らず、「人の波に流れて逃げるまたは灯台に避難する」と回答しました。また、インタビュー調査によると避難先を Google マップで調べる人紙媒体のマップを見る人に分かれることがわかりました。ただ、災害時には東日本大震災の時と同じように大勢の人が一度に携帯で身内の安否確認等の連絡をするためインターネットの接続が悪くなることを想定すると紙媒体のマップが有効であるという回答もありました。さらに、町中で見かける避難先案内表示は小さく、汚れていて見えづらい場合もあります。また、英語訳がされている場合でも、とても小さく目に付かないほどでした。以上のことから、既存の案内板や表示は効果を発揮していないことがわかり、私たちのマップの意義がここで見出せます。

次に「このマップを利用したいか・利用したくないか？」という質問では利用したいと答えた人が 69%であり、需要があることを裏付けています。利用したくないと答えた 21%の人からは「GPS の利用がより早く、正確」、「QR コードでマップを開き避難所まで案内する」といった意見や新たな提案がありました。



6. 結果や今後の取り組み

私たちは次の 3 つのことを今後の展望としています。

① 「QR コードに対応するマップの検討」

藤沢市でインタビュー調査をした際に、震災時に素早く現在地から最短で高台や避難所への避難ルートを案内するマップを表示する QR コードを“ENOSHIMA AREA REFUGE CARD”に掲載するという案がいくつかありました。しかし、緊急時に冷静になって QR コードを読み取りマップの案内に従えるのかという課題があります。インタビューに受け答えしていただいた方の中で、緊急時は携帯でマップを確認するという人と紙媒体のマップで確認するという人がいたので、どちらにも対応する必要があると考えています。

② 「外国人観光客に対して地震発生時の通信障害のリスクを伝える」

多くの外国人はそもそも地震を経験したことがなく、また地震時にどういった問題が二次的に発生するのかを知りません。私たちですら通信障害を予測していませんでした。インターネットが普及し全て携帯一つで賄ってしまう現代だからこそ、ネットが使えなくなってしまう最悪な状況を外国人に認識してもらう必要があると考えています。その上で、アナログだからこそ大いに効果を発揮できるものが求められ、それが時に重要な役割を果たす可能性があるため私たちの提案するこのカードの必要性と実用性を高めていきます。

③ 「藤沢市防災政策課に実用に向けて協議を行う」

藤沢市防災政策課の渋谷様に私たちが提案する“ENOSHIMA AREA REFUGE CARD”を見てもらい、実現可能性を確認してもらいます。案が通った後、藤沢市に協力を求め活動を開始します。このカードが普及した際には、隣の鎌倉市の海沿いにも配布して、需要がある限り全国へと広げていきたいと考えています。

7. 参考文献

内閣府 防災情報ページ（最終閲覧日 2019.09.23）

<http://www.bousai.go.jp/kyoiku/hokenkyousai/jishin.html>

・“災害教訓の継承に関する専門調査会報告書 1923 関東大震災” 内閣府 災害情報のページ（最終閲覧日 2019.09.23）

http://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunnokeishou/rep/1923_kanto_daishinsai/index.html

朝日新聞デジタル

札幌で帰宅困難者あふれる 地下通路を解放 北海道地震（最終閲覧日 2019.09.23）

<https://www.google.co.jp/amp/s/www.asahi.com/amp/articles/ASM2Q00J4M2PUTIL064.html>

Yahoo!ニュース

震度 7 で孤立した北海道、台風被害で足止めの閑空 自律とボトルネック解消の大切さ（最終閲覧日 2019.09.23）

<https://news.yahoo.co.jp/byline/fukuwanobuo/20180910-00096236/>

・“人種差別撤廃委員会の日本審査に向けた NGO 共同レポート 東日本大震災の外国人被災者” 法務省ホームページ（最終閲覧日 2019.09.23）

<http://gaikikyo.jp/shinsai/cn17/pg167.html>

・“阪神淡路大震災および東日本大震災と外国人” 総務省（最終閲覧日 2019.09.23）

http://www.soumu.go.jp/main_content/000194569.pdf

・“首都圏「大震災で大津波が来る駅」ランキング” 東洋経済 ONLINE（最終閲覧日 2019.09.23）

<https://toyokeizai.net/articles/-/222714?page=2>

日本政府観光局 JNTO（最終閲覧日 2019.09.23）

https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/visitor_trends/

インバウンド NOW（最終閲覧日 2019.09.23）

<https://www.google.co.jp/amp/s/inboundnow.jp/media/knowhow/6790/%3famp>

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員（ビジネスパーソン・大学教員）の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、インナー大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経ビジネス様（株式会社日経 BP マーケティング）に大会結果ページを作成いただいております。大会結果ページにはチーム名やご提出いただいた本企画シートが掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1~7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡します。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更（チームの人数・交代など）は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会（プレゼン局）にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・株式会社日経 BP マーケティングは一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先（使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など）を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。「有」の場合は使用するスライド番号も明記してください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※成果物を使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ ここまでを 4 ページ以内におさめて、ご提出ください